



健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及広報課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

第17回結核予防関係婦人団体中央講習会開催



開講式にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

平成25年2月12日・13日の2日間、東京都千代田区のKKRホテル東京にて秋篠宮妃殿下よりお言葉を賜り、第17回結核予防関係団体中央講習会が開催されました。

秋篠宮妃殿下は、開講式への御臨席のほか、複十字シール運動や結核予防の普及活動についての課題・問題点を議論した班別討議の様子をご覧になり、各班別討議の結果を発表した全体討議を御聴講されるなど、講習会プログラムにも御臨席なさいました。

(秋篠宮妃殿下のお言葉は本誌2ページに記載)

第64回結核予防全国大会開催

平成25年3月19日ホテル椿山荘東京にて、第64回結核予防全国大会が開催されました。

また、同大会で第16回秩父宮妃記念結核予防功労表彰式が行われ、本協議会からも前副会長の米窪千加代様が事業功労賞(個人)を受賞し、秋篠宮妃殿下より表彰状が授与されました。

(秋篠宮妃殿下のお言葉は本誌2ページに記載)



大会式典にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

第十七回結核予防婦人団体中央講習会 お言葉

平成二十五年二月十二日(火)

本日、第十七回結核予防婦人団体中央講習会の開講式にあたり、全国よりお集まりの皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

戦後、結核をめぐる厳しい状況は、多くの関係者のご尽力により、著しく改善されてきました。しかし、結核は、いまだ幾つもの課題を抱えております。特にアジア諸国やアフリカ諸国においては、主要な感染症として猛威をふるい続け、経済的な貧困の大きな原因の一つになっております。

日本も、平成二十三年には二万人以上の新たな結核患者が発生するなど、依然として中蔓延国に位置しています。加えて、結核患者の高齢化による合併症を有する患者の増加など、結核問題は複雑化するとともに、質的変化を見せています。このような現況の下で結核をなくすためには、ゆるみなく結核対策を進めていく必要がございます。

結核予防婦人会は、長年にわたり、結核に対する予防意識を高め、予防行動を促すために、極めて大きな役割を果たしてこられました。また、結核予防会やストリップ結核パートナーシップ日本などと共に、国内外の結核をなくすために、国際協力事業にも貢献していらつしやいます。皆さまのたゆまぬご努力に、心から敬意を表します。

日本国内で進められてきた婦人会の活動は、海外へも紹介され、新たな結核予防活動につながっています。タイ国チェンライ県の女性グループが結核の状況を学び、日本の結核予防婦人会の取り組みに感銘を受け、自らを「結核を無くす女性ボランティア」と名づけて、結核患者を支援する活動をおこなっているというお話を伺いました。婦人会の皆さまの地道な活動の輪が、国をこえて広がっていることを、大変喜ばしく思います。

この度の中央講習会は、百二名の方々が参加されています。これからの二日間にわたり、子どもの結核とBCG接種、生活習慣病などの講演や、体操の時間、そして、地域の情報を交換し、今後の活動について話し合われる班別討議が予定されています。

本講習会に参加されるお一人お一人が、有意義な時間をお過ごしになり、結核をはじめとする疾病に対して更に理解を深め、これからも結核予防の活動を推進され、広く人々の健康な暮らしに力を尽くされますことを心より願い、開講式に寄せる言葉といたします。

第六十四回結核予防全国大会 お言葉

平成二十五年三月十九日(火)

「第六十四回結核予防全国大会」が東京都において開催され、全国よりお集まりの皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

本日の大会におきまして、「第十六回秩父宮妃記念結核予防功労賞」の表彰を受けられる皆さまに、心よりお祝いを申し上げます。これまでのご努力に對し、深く感謝いたしますとともに、今後の更なるご活躍を願っております。

今からちょうど百年前の大正二年、日本結核予防協会という団体が設立されました。この協会は、各地にあった結核予防協会が連合した団体として、現在の結核予防会が昭和十四年に設立されるまで、結核予防活動をおこなったと伺っております。当時の日本の結核死亡率は人口十万人対二百十五・九と極めて高く、結核は不治の病として恐れられていました。しかしその後、「国民病」と言われた日本の結核の厳しい状況は著しく改善されていきました。このような成果に貢献されてきた多くの関係者のご尽力に、改めて敬意を表します。

現在、日本の結核罹患率は着実に低下していますが、未だに年間二万三千人近くが新たに結核を発症しております。なかでも七十歳以上の高齢者の患者数は、全体の五割を超えております。他方、若い患者層での外国人の割合の増加や、大都市での結核罹患率が高いことなど、様々な課題があります。結核対策をさらに進めるためには、医療従事者はもとより、広く一般国民に対して、結核の知識について正しい情報の発信を続け、結核という病気と結核対策への理解を深めていくことが重要でございます。

昨日の午後には、「結核対策の行方ー日本そして世界」をテーマに、シンポジウムが開催されました。日本および世界の結核対策、保健所と医療機関の連携、結核予防婦人活動について、新たな結核診断技術や治療薬など、興味深い報告があり、大変心強く思いました。結核対策の現況と課題を認識する貴重な機会になったのではないのでしょうか。

結核予防会では、様々な結核対策の推進に加え、東日本大震災の被災地支援についても、健康支援活動を継続していると伺っております。結核予防会が、結核予防をはじめとして、人々の健康を支えるために、今後も重要な役割を果たしていくことを希望しております。

本大会に参加された皆さまが、大会の成果をそれぞれの地域の活動に十分活かし、人々が健康な生活を送ることができるよう、一層力を尽くされることを願い、式典に寄せる言葉といたします。



公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 就任ご挨拶

副会長就任に寄せて

北海道健康をまもる地域団体連合会
会長 齋藤 芳子



この度、平成25年度の理事会に於いて副会長の役割を担う事になりました。

米窪千加代副会長がご退任され、その後任に着きます事は、元より微力な私にとりまして大変な重責と感じております。皆様のご指導と温かいご協力を心よりお願い申し上げます。

本協議会の目的であります結核予防運動複十字シール募金活動を中心に、現在日本人の死亡原因の第1位は「がん」である事を認識し、がん予防運動がん検診受診率の向上の啓発活動を推奨し、生活習慣病の予防、食生活改善や運動を取入れて、健康で明るい長寿社会を形成するために、男女共同参画による全ての人々に受け入れられる多様な活動を推進出来ます様願っております。

どうぞよろしくごお願い申し上げます。

理事就任に寄せて

栃木県結核予防婦人連絡協議会
会長 小野 ナツ



平成25年度全国結核予防婦人団体連絡協議会総会席上にて、理事任命を受け就任いたしました。微力

ながら今後の活動に会員の皆様共々頑張りたいと存じます。

結核は過去の病気と、結核に対する理解が低下しつつありますが、今や日本でも1年間に2万人以上が新たに発病している古くて新しい病気として、依然主要な感染症であることを重く受け止め、更なる活動の強化に努めます。

結核予防婦人会は地域婦人会が母体となっており、地域に根付き、地域に密着した活動展開しております。まずは家庭から、地域から結核を追放し、官民一体となった取り組みと結核予防への関心を高めるための複十字シール運動等々を通して、正しい知識の普及に、更に励んで参りたいと存じます。

毎年結核対策の強化を求め、8月の運動開始に合わせて知事表敬訪

間を行っております。

私たちの運動の成果は、必ずや明るい社会づくりに反映されるものと確信しております。

理事就任に寄せて

石川県結核予防婦人会
会長 藤多 典子



昨年4月より、県婦人団体協議会の会長の重責を引き継ぐことになりました。

以前より結核予防会の複十字シール運動等を通して結核が、まだまだ侮れない病気であることは知っていましたが、高齢者の方の死亡率が高いことや、若い人達に多いことに驚き、これは放置できない事であり、私達婦人会の組織の力で、結核予防対策をPRし、日本から結核がなくなる日が来るまで継続していくことだと思います。

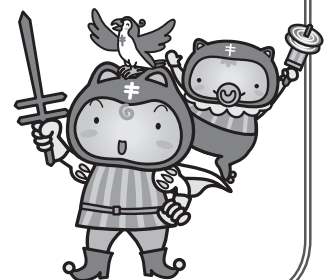
安全・安心の地域づくりを目指している私達婦人会が今後、複十字シール運動を通して結核という病気の“恐ろしさ”を伝え予防する大切さを広めていきたいと思っております。

8月1日から全国一斉複十字シール運動が始まります

つきましては、全国知事表敬訪問を今年も宜しくお願いいたします。結核予防全国大会の決議宣言についてご説明いただき、複十字シール運動へのご理解、ご協力をお願いいたします。

また、9月24日～30日結核予防週間に先立ち「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」を実施します。普及と発展を図るため街頭募金活動等、昨年同様ご協力をお願いいたします。

目標は一つ 結核のない明日をつくるために！



写真で
振り返る



第17回結核予防関係婦人団体中央講習会

(2月12日・13日 KKRホテル東京)



全国各地の婦人会から102名受講されました

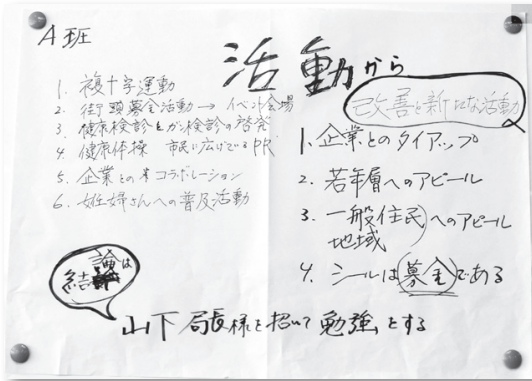


皆さん熱心に受講されている様子

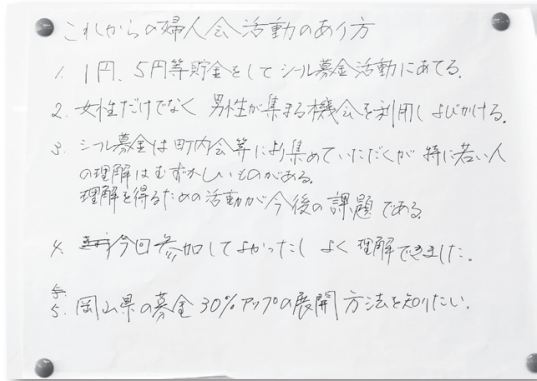


COPDについて講義いただいた
複十字病院 工藤翔二 院長

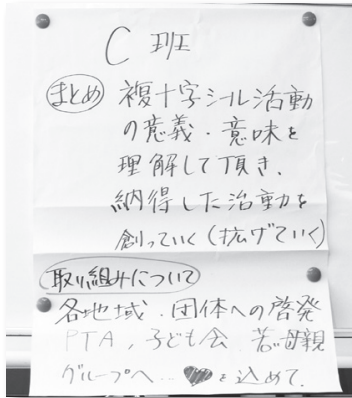
各班から班別討議の結果発表



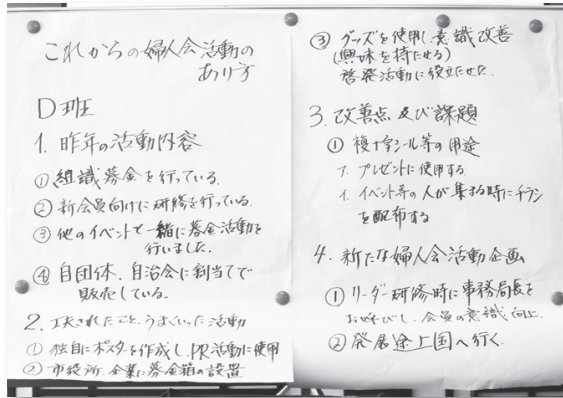
A班



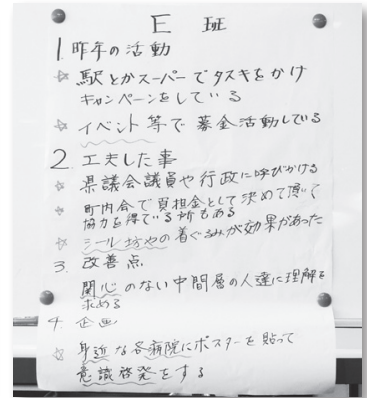
B班



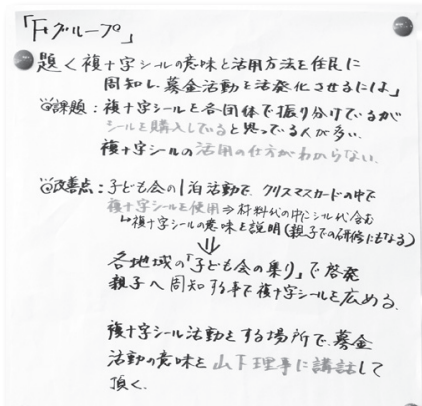
C班



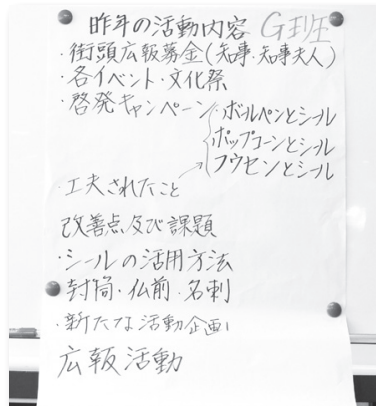
D班



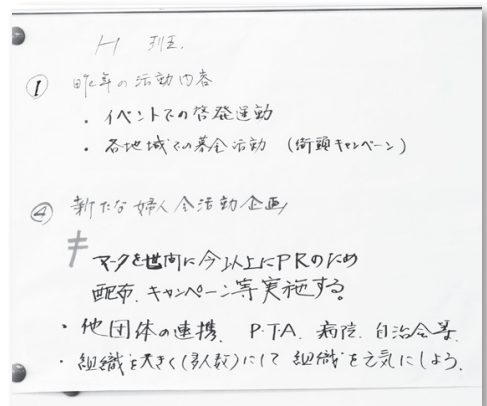
E班



F班



G班



H班

中央講習会スケジュール

テーマ：自分の健康は自分で作る ～国民運動への展開～

● 第1日 2月12日(火) ●

開講式	13:10～13:40
主催者挨拶	結核予防婦人会 会長
主催者挨拶	結核予防会 理事長
総裁おことば	秋篠宮妃殿下
来賓挨拶	厚生労働省 健康局長
「健康の歌」斉唱	
写真撮影	13:50～14:05
講演①	14:15～15:05
肺の生活習慣病『知っていますか？ COPD(たばこ病)』	
公益財団法人結核予防会複十字病院 院長	工藤 翔二
講演②	15:15～16:05
『生活習慣病 正しい知識と予防について—婦人の役割を考えよう—』	
公益財団法人結核予防会新山手病院 生活習慣病センター長	宮崎 滋
講演③	16:15～16:55
『ワクチンは子供を守る—子供の結核とBCG—』—結核という病気—	
公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長	森 亨
講演④	16:55～17:25
「ワッハッハッ 健幸体操」	
特定非営利活動法人 健康生活研究会 副理事長	浅野 有信

● 第2日 2月13日(水) ●

講演⑤	8:30～9:00
『結核予防婦人会について』	
『複十字シール募金と国際協力について』	
公益財団法人結核予防会 事業部顧問	
全国結核予防婦人団体連絡協議会 理事・事務局長	山下 武子
講演⑥	9:10～9:40
『非感染性疾患対策について』	
独立行政法人国立国際医療研究センター 企画戦略局長	亀井 美登里
オリエンテーション	9:40～9:50
班別討議	9:50～11:30
全体発表会・総評	
婦人会の皆様へ	11:40～12:00
終講式	12:00～12:20
主催者挨拶	結核予防婦人会 副会長
主催者挨拶	結核予防会 専務理事
修了証・バッジ授与	
受講生代表挨拶	
蛍の光斉唱	



班別討議では活発な意見が交わされました



班別結果発表の総評を述べられた
結核予防婦人会 中畔都舎子会長



終講式では結核予防会長田功理事長より
修了証が授与されました
(受講生代表：京都市結核予防婦人会
西脇悦子様)



懇親会では演歌歌手の吉野りこ様
に歌を披露していただきました

第16回秩父宮妃記念結核予防事業功労賞(個人部門)受賞

元全国結核予防婦人団体連絡協議会 副会長
元結核予防婦人会長野県連合会 会長
米窪 千加代



平成25年3月19日、ホテル椿山荘東京におきまして、秋篠宮妃殿下ご臨席の下、第64回結核予防全国大会が開催されました。

また、この大会に於いて、秩父宮妃記念結核予防功労賞表彰式が行われ「第16回秩父宮妃記念結核予防事業功労賞(個人)」受賞の栄誉を賜りました。多くの方々のお力添えと感謝申し上げます。

長野県の結核予防婦人会は全国に先駆けて始まりました。戦後間もなくの昭和25年、小学校に於いて結核の集団発生があり、その時より婦人会が結核予防に立ち上がりました。

以来60余年、結核予防婦人会の県組織が昭和32年に発足して活発な活動が進められて来ました。県の活動の外に地域の活動や研修も、県の担当者や保健所の指導も受けて「結核予防は婦人の手で」と活発な活動が進められました。

結核予防関係婦人団体中央講習会は、私は御殿場での研修に出席しました。その時は、秩父宮妃殿下の別荘にお招きいただき、お茶を頂き和やかに懇談させていただきました。

近年、結核対策の取り組みの中で海外へ行き、現地を視察し女性達との交流をしようという「スタディツアー」が行われています。

私は、初めはネパールへ、次はミャンマーと行かせていただきました。日本の結核も世界では決して先進国ではないが、まだまだ大変な現状を見学して来ました。他国との交流が多くなる時代です。情報交換

が必要になります。長野県でも「ストップ結核アクションコース」研修旅行の参加の方々を受け入れ交流しました。

「結核国際研修50周年記念式典・シンポジウム」にも出席させていただきました。(結核のない世界)の実現に向けた人材育成は勿論、ストップ結核日本として、誰にも出来る複十字シール運動(老いても出来る)に、これからも努力して参りたいと考えています。

この度の「結核予防事業功労賞」受賞の折りに、秋篠宮妃殿下に微笑みながら表彰状を手渡された時、秩父宮様のやさしい面輪と重なって、胸がいっぱいになりました。ありがとうございました。

第64回結核予防全国大会を終えて

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟
会長 谷茂岡 正子



第64回結核予防全国大会が3月18日・19日ホテル椿山荘東京で盛大に開催され、東京が当番県としてお手伝いをしました。毎年出席していても、当番県となると緊張して、何かいつもと違います。特に総裁秋篠宮妃殿下には2日間のご臨席を仰ぎ開催されましたことは誠にうれしく思いました。

秋篠宮妃殿下には私どもの活動について、親しくお聞きになられ、温かい励ましのお言葉をいただき感激ひとしおでした。当番県として妃殿下の先導役をお受けし、親しくお側に寄れ、お言葉を交わすことができましたこと、この上もなく一生の光栄の思い出になりました。

そして妃殿下より「大変楽しゅう

ございました。今後も身体に気を付けて、皆さんのために、居られるよう長寿して下さい」とのお言葉をいただき、胸が熱くなりました。私たち全国結核予防婦人団体連絡協議会は、この大会を通して、お互いに協力し合い結核予防の知識や複十字シール運動に、より一層積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

皆さまご存知のように、日本では現在1年間に2万人以上が結核発病しています。そして、2千人以上の人が死亡しています。

日本では結核は過去の病気ではなく、以前として中まん延国だそうです。私たちは何か結核に対する理解が低下しているようです。

結核は依然として感染症であるので、引き続き十分な対応が必要不可欠であります。また患者数が年々増加しているCOPD(慢性閉塞性肺疾患)は年齢が高くなるほど有病率が高くなっているそうなので風邪でもないのに咳や痰が続くときは早めに受診して下さい。

そのためにも積極的に結核予防の知識や普及を図るとともに、複十字シール募金運動も積極的に推進し、患者の減少に貢献していかねばと強く感じました。



大会式典



研鑽集会

第64回結核予防全国大会 決議

平成23年の我が国の新規結核患者は22,681人、罹患率は人口10万対17.7で、我が国は依然として中まん延国です。最近の結核の特徴としては、合併症をもつ高齢患者の増加、ホームレス・日雇い労働者など社会経済的弱者を多く抱える大都市などの罹患率が高く、国内での地域間格差の拡がりが見られること、外国人患者のうち20～30代の若年層の増加など、質的な変化を示しており、重点的な対策の強化が求められています。

平成23年5月には「結核に関する特定感染症予防指針」が改訂され、平成27年までに人口10万対罹患率を15以下とするなど具体的目標も掲げられ、結核制圧に向けた更なる一歩が踏み出されました。

診療報酬面では平成24年の改訂で一定の改善が図られましたが、結核医療には総合的で高度な医療体制が必要であるにも関わらず、他の疾病に比べ診療報酬評価が低く不採算部門に陥っている状況を踏まえ、より適正な評価が行われる必要があります。

結核の発病、悪化には喫煙や糖尿病、悪性腫瘍などが関与しており、生活習慣病の予防が結核予防につながる事が再認識されています。そこで、強力な禁煙運動や受動喫煙防止対策を推進し、COPD（慢性閉塞性肺疾患）や肺がんなどの呼吸器疾患対策に努める必要があります。

生活習慣病対策としては、特定健診・特定保健指導が重要な役割を担っており、円滑な実施に向けた見直しが行われているところであります。

世界に目を向けると、結核は依然として大きな社会問題となっております。特にアジア、アフリカなど開

発途上国では人材や技術不足から他の健康問題と並んで深刻な状況にあり、我が国からの技術協力による貢献がさらに期待されています。これに関連し、日本発の新しい技術として、簡便で精度の高い結核菌検査や新たな抗結核薬など、世界の結核対策に大きな貢献をしようする技術も開発されており、これらを積極的に活用して、さらに結核対策を進めていく必要があります。

よって、今大会において検討の結果、次の事を決議いたします。

1. 「結核に関する特定感染症予防指針」に基づく対策としては、

① 国、地方公共団体、結核予防会及び結核予防会各都道府県支部においては、結核に関する知識や技術を国民や医療関係者に正しく伝え、結核のまん延防止に努めること。

② 国、地方公共団体、結核予防会は結核研究をより一層推進し、新診断技術や新抗結核薬の開発と早期導入を進めるとともに、結核対策のための人材育成を図ること。

③ 国及び地方公共団体は、大都市における生活不安定者、高まん延国出身者等の結核問題解決のために、広報、啓発活動の強化、療養環境の整備を行うこと。さらに、生活支援、服薬支援などを一元的に行い、社会経済的弱者の健康問題に総合的に取り組むこと。また結核の診療報酬評価の是正に継続して取り組むこと。

2. 結核の国際協力としては、

① 国は、「ストップ結核ジャパンアクションプラン」に基づき、必要な施策を推進するとともに、結核対策を含む保健分野

に知見を有する関係団体の主体的活動を支援すること。

② 我々は、日本発の新技术について、その有用性を積極的にアピールし、その普及を図り、さらなる世界の結核対策に貢献すること。

3. 我々は、結核予防の普及啓発や国際協力の貴重な財源となる複十字シール運動を盛り上げるため、関係者・団体への働きかけに努めること。

4. 肺がんやCOPD等の呼吸器疾患対策として、

① 我々は、「呼吸の日」（5月9日）・「肺の日」（8月1日）行事をはじめ、国民に対する普及啓発に努めること。

② 我々は、COPD予防を生活習慣病対策の柱の一つと位置づけ、調査・研究を支援するとともに、肺機能検査等を健診の必須項目に加え、その早期予防と治療に努めること。

5. 特定健診・特定保健指導対策としては、

① 国は、特定健診・特定保健指導について、生活習慣病予防における指針のもと円滑な実施に努めること。

② 我々は、特定健診・特定保健指導の推進を国民運動にしていくため、関係者と連携し、スマートライフプロジェクト等の普及啓発活動を支援すること。

6. 上記の他、我々は、東日本大震災被災地への健康支援を継続して実施します。

以上6項目の実現に向けて一層努力するものといたします。

以上決議いたします。

平成25年3月19日

第64回結核予防全国大会

第64回結核予防全国大会 宣言

我が国の平成23年における結核罹患率は人口10万対17.7で、我が国は依然として中まん延国です。平成23年5月に「結核に関する特定感染症予防指針」が改訂され、平成27年までに罹患率を人口10万対15以下とするなど具体的目標も掲げられ、低まん延国化にむけた新たな一歩が踏み出されましたが、我が国を取り巻く結核の状況は、合併症を伴う高齢患者の増加、ホームレス、日雇い労働者を抱える大都市への集中化、外国人患者割合の増加など、複雑化し質的な変化を呈してい

ます。

国内では科学的で実効性のある結核対策の充実に努めるとともに、地域特性をふまえた結核医療提供体制の確立及び診療報酬の適正化に引き続き取り組み、また、東日本大震災被災地への健康支援実施を継続します。

世界に向けては、ストップ結核ジャパンアクションプランを確実に実施し、結核の制圧へ向け総力を挙げて取り組みます。

また日本発の新技术について、その有用性を広め、積極的に活用する

よう働きかけます。

さらに、特定健診・特定保健指導の推進、禁煙運動や受動喫煙防止対策による肺がん、COPD（慢性閉塞性肺疾患）をはじめとする呼吸器疾患対策をすすめ、国民に対する正しい知識の普及啓発に努め、世界の人々が健康で明るい生活を送れるよう組織一丸となって努力します。

以上宣言します。

平成25年3月19日
第64回結核予防全国大会

内戦終結から20年

—進む経済発展と格差の広がるカンボジアの現状—

公益財団法人結核予防会
元国際部契約職員
山本 記代美

内戦終結から約20年、同国は著しい経済成長を続けていますが、その影には発展から取り残される地方の姿もあります。

ポルポトによる虐殺、内戦、地雷。「カンボジア」が抱える負の歴史です。

実はカンボジアはアジアの中でも最も結核患者の多い地域です。先の内戦による保健医療制度の崩壊、国民の栄養状態の悪化などが原因

と考えられています。

結核予防会は、2010年から2012年にかけて、JICAプロジェクトとしてカンボジアの全国結核有病率調査の実施を支援しました。調査地区は首都から農村部まで幅広く分布し、調査を通じて現在のカンボジア



筆者(左)と国際部 岡田耕輔 部長(右)



首都プノンペンの様子

の姿を見ることができました。

首都プノンベンは人口100万人以上の大都市であり、民間の医療機関も多く結核患者の数は減少傾向にあります。そんな大都市プノンベンから車で1時間も移動していくと、たちまち車窓の景色が緑豊かな田園風景へと変わっていきます。都市部とは対照的に医療施設が不十分であるため、多くの住民にとっては看護師や医師補しかない「ヘルスセンター」が身近な公的医療機関となります。しかし、このヘルスセンターにすら行くことができず、村にある「よろず屋」で薬を買って対応する

ケースも少なからずあります。このような地域では未だ結核患者が多いのが実状であり、結核はますます貧困層に集積する病となりつつあります。

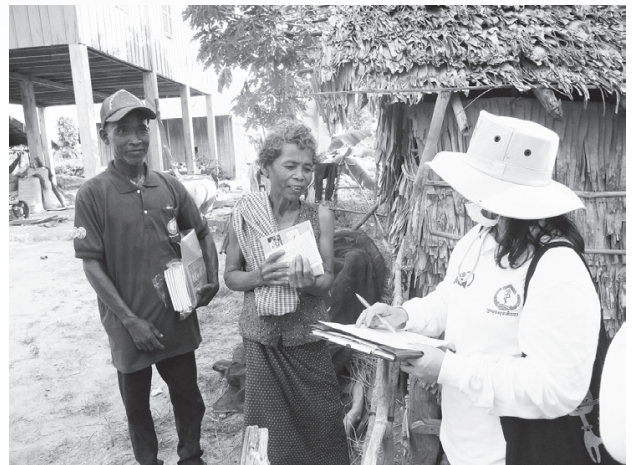
今回の調査結果を2002年に実施された第1回調査の結果と比較すると、約38パーセントの喀痰塗抹陽性患者（顕微鏡検査で痰から結核菌が見つかる感染力の強い患者）の減少が認められました。これは過去10年以上にわたり、JICAや結核予防会をはじめとする協力組織により進められてきたカンボジア国への結核対策支援の結果を示しています。

しかしながら、カンボジアの結核有病率は世界的に見ても未だ高く、高齢者や貧困層にますます結核が集積しつつあることが、その原因ではないかと考えられます。

負の歴史を乗り越え発展を続ける都市部と、発展から取り残されたままの地方。そしてそこから生まれる様々な格差と矛盾。無邪気な笑顔を向けてくれる子供たちのためにも、この国の明るい未来づくりを支援することを続けていきたいと思えます。



フィールド調査で撮影したX線フィルムをその場で現像し、読影も行った



実際のフィールド調査に先行し、対象世帯を訪問し、調査について説明を行った



水道が整備されていないため、共同井戸が貴重なライフライン



農村地域でたくましく生きる子供たち

平成25年度複十字シールの紹介 ～春夏秋冬～

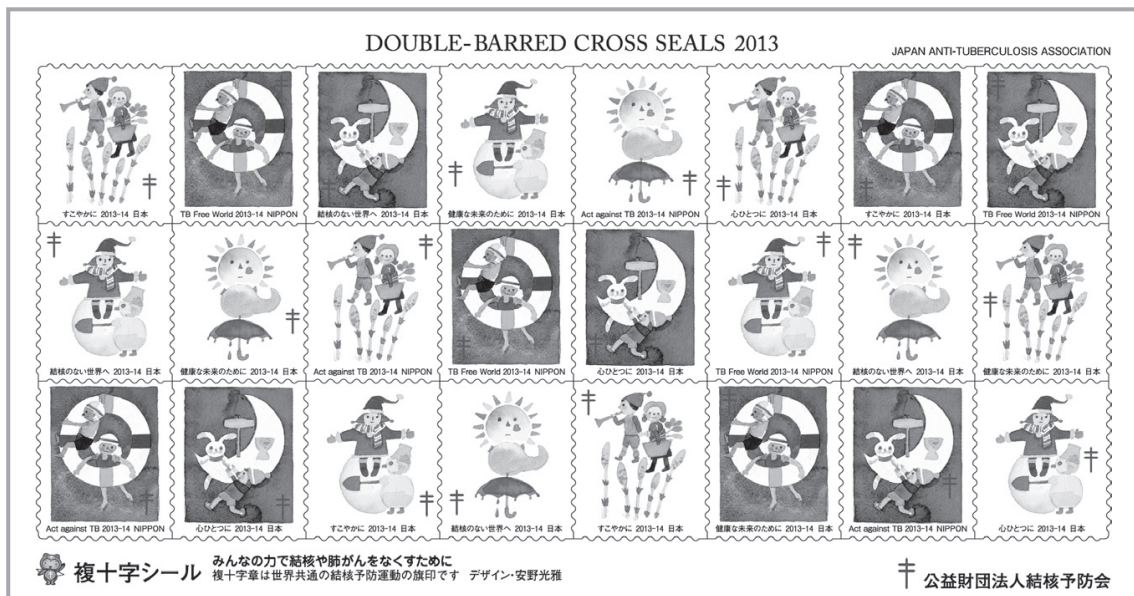
安野光雅（あんの みつまさ）先生のデザインされた、今年の複十字シールは、自然の風物や子供達の感情を豊かに春夏秋冬で表現しています。春のつくし、夏の海水浴、秋のお月見、冬の雪、日本は移りゆく季節を感じら

れる美しい国であると改めて思います。

多彩な複十字シールを、皆さまのアイデアで広めていただき、是非ご活用ください。

公益財団法人結核予防会 事業部普及広報課

♪2013年 複十字シール♪



イラスト・カット募集

平成25年11月号（健康の輪No.109）に掲載するイラスト・カットを募集致します。

花・動物・その他、何でも結構です。

締切は、平成25年9月13日（当会必着）です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12

TEL：03-3292-9288

